

法人税 確定申告書 ( 年分・平成〇〇年〇月〇日 事業年度分・ ) に係る

平成△△年△月△日

税理士法第33条の2第1項に規定する添付書面

33の2①

		※整理番号				
税理士又は 税理士法人	氏名又は名称	税理士 国税 太郎 (印)				
	事務所の所在地	東京都千代田区霞ヶ関〇-〇-〇 電話 (03) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇				
書面作成に 係る税理士	氏 名	税理士 国税 太郎 (印)				
	事務所の所在地	東京都千代田区霞ヶ関〇-〇-〇 電話 (03) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇				
	所属税理士会等	東京 税理士会 〇〇 支部 登録番号 第 〇〇〇〇〇号				
税務代理権限証書の提出		<input checked="" type="checkbox"/> ( 法人税・消費税 ) ・ 無				
依 頼 者	氏名又は名称	株式会社 〇〇商事 代表取締役 〇〇 一郎				
	住所又は事務所の所在地	東京都千代田区霞ヶ関〇-〇-〇 電話 (03) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇				
私 (当法人) が申告書の作成に関し、計算し、整理し、又は相談に応じた事項は、下記の1から4に掲げる事項であります。						
1 自ら作成記入した帳簿書類に記載されている事項						
帳簿書類の名称		作成記入の基礎となった書類等				
・ 総勘定元帳・試算表・貸借対照表・損益計算書・勘定科目内訳書・法人税申告書		2の帳簿書類の名称欄に記載				
2 提示を受けた帳簿書類 (備考欄の帳簿書類を除く。) に記載されている事項						
帳簿書類の名称		備 考				
・ 収支日記帳・預金通帳 ・ 契約書・領収書・証憑書類						
※事務 処理欄	部門	業種	意見聴取連絡事績		事前通知等事績	
			年月日	税理士名	通知年月日	予定年月日
			・ ・		・ ・	・ ・

3 計算し、整理した主な事項		
区 分	事 項	備 考
(1)	①売上高・売掛金 } 前期と対比し増減の要因を検討 ②仕入高・買掛金 } また、掛金の期末残について確認 ③未払費用 } 証憑書類との突合 ④前払費用 } 信用保証料の計算はよいか ⑤減価償却資産 } 減価償却費の限度額計算はよいか ⑥借入金 } 元金利息の区分・信用保証料の損金算入分の計算について ⑦引当金 } 貸倒・賞与引当金の計算はよいか	請求書・証憑書類
(2)	(1)のうち顕著な増減事項	増 減 理 由
	① 売上高の増加  ② 売上原価（仕入・人件費）	今期は、法人設立第一期目で3月31日よりの営業となった。個人事業として営業していた夜の飲食店業務は、景気の低迷で目標売上高を確保することが出来なかったが、昼間の営業として給食の提供を開始したため、売上高全体では個人事業として営業していたときより増収となった。  上記昼間の事業開始のため、材料費から人件費のその他の費用について増加したが、逆に共通費用となる部分もあって利益率をあげることが出来た。
(3)	(1)のうち会計処理方法に変更等があった事項	変 更 等 の 理 由
	特になし	

4 相談に応じた事項	
事 項	相 談 の 要 旨
法人成りと個人事業廃止について	平成〇年3月30日で個人事業を廃止し、31日から法人として営業することとなり、税務上の注意事項について相談を受けた。特に3月からはじめた新事業については、法人として営業する予定であったが、事業開始時期や法人成りの時期の関係もあり、3月30日までの営業を個人としそれ以後については法人での営業とすることとなった。
	<p>個人事業の廃止及び法人成りの経緯について、詳細な記載があり、調査省略等の際の参考になる。</p> <p>① 税理士が各項目について、どのような検討を行ったのかについて、詳細な記載があり調査省略等の参考となる。 ② 自家消費の取扱い、他科目交際費の検討などについて、税理士が検討・確認を行っており調査省略等の参考となる。</p>
5 その他	
<p>その他審査項目</p> <p>《売上高、売掛金》取引先別の発生と回収の状況の確認、クレジットカードでの決済や会社請求で売掛金計上漏れがないか毎日の売上傳票とクレジット明細・請求書等の証憑書類で確認。また、従業員の賄い食は自家消費分として算出した金額を売上で計上している。</p> <p>《仕入高・買掛金》取引先別の発生と支払状況、期末残高の確認及び棚卸在庫の有無 特に食材の仕入はそのほとんどが毎日現金で仕入れている。</p> <p>《交際費》接待交際費以外の科目で計上されている支出等につき実質交際費に該当するものの確認</p> <p>《在庫》期末在庫は、期末現在の実地棚卸で集計され、主に食材在庫と飲料在庫である。 生鮮食材の家事消費は一切なく、いたんだ食材はその都度廃棄している。</p> <p>《前払費用》一年を超えて役務の提供を受ける支出の当期損金計上分を計算し、損金計上した。</p> <p>《固定資産》新規取得資産はあるか、売却及び除却資産の確認、また償却限度額計算は正しくおこなわれているか。</p> <p>《長期借入金、支払利息》毎月返済金額についての元金と利息の区分、信用保証料の償却額の計算・期末借入残高の確認</p> <p>《雑収入》車輛の個人利用分をその利用状況から算定し雑収入で計上した。</p> <p>○ 期中及び決算にかかわる経理処理は、整然かつ明瞭に行われており、取引にかかわる各種証憑書類の保存・整理も良好になされている。</p>	